

# 金沢市協働推進計画2026（仮称）骨子案

## 1. 金沢市協働推進計画2026（仮称）の趣旨

### （1）策定の背景と目的

- 本市は、これまで自然環境や歴史、風土の中で培われてきた公私協働の土壌を守り育て、これを活かしながら、市民の自主性とまちの独自性を発揮し、発展してきました。これからも市民主体のまちとして将来にわたりさらに発展するには、市民との協働によるまちづくりを進めていく必要があります。
- この計画は、平成17（2005）年に制定した「金沢市における市民参加及び協働の推進に関する条例」に基づき、市民参加及び協働による市政を総合的に推進するための目標や方針、取組をとりまとめたものです。
- 本市では、平成19（2007）年に「金沢市協働推進計画」を策定、その後、社会構造や時流、市民意識の変化を踏まえ、平成28（2016）年には、第2次の「金沢市新協働推進計画2016」、令和3（2021）年には、第3次の「金沢市協働推進計画2021」を策定してきました。
- このたび、現行の第3次計画期間の満了を前に、これまで以上に担い手の支援に意を用いていくことや、多様な主体間のつながりを生み出す仕掛けに加え、頻発する甚大な災害に備えた安心・安全なまちづくり、活動のデジタル化など、社会情勢の変化にも対応した市民協働による持続可能な地域づくり・まちづくりを一層進めていくため、第4次の「金沢市協働推進計画2026（仮称）」を策定します。

### （2）計画期間

令和8（2026）年度～令和12（2030）年度 【5年間】

### （3）本計画の位置づけ

この計画は、本市の都市像の実現に向けた行動計画として、令和6（2024）年に策定した「未来共創計画」の分野別計画としても位置づけられています。

目指すべき将来像 **「未来を拓く世界の共創文化都市・金沢」**  
～すべての人々と共に、心豊かで活力ある未来を創る～  
(令和5（2023）年12月策定)

未来共創計画 (令和6（2024）年2月策定)  
令和6（2024）年度～令和15（2023）年度（10年間）

#### 基本方針（抜粋）

2 多様な人々が共生し、心豊かに暮らせるまち  
～暮らしづくり～  
多様な主体の協働による元気で活力あふれる地域コミュニティの醸成

3 共に学び、未来を創る人を育むまち  
～人づくり～  
学都の強みを生かした次代の担い手育成

#### 各分野への横断的視点（抜粋）

若い世代、民間事業者、移住者など、地域に関わる多様な人々の視点や活力の活用  
あらゆる分野におけるデジタル化の推進

#### 第3次「金沢市協働推進計画2021」

(令和3（2021）年3月策定)  
令和3（2021）年度～令和7（2025）年度

将来像 あらゆる市民がつながる  
パートナーシップによるまちづくり

#### 基本方針

- 1 多様なつながりを生み出そう  
- 課題共有に向けた発信・対話の強化 -
- 2 つながった仲間と動き出そう  
- 担い手への支援体制の強化 -
- 3 つながりを束ねて大きな力にしよう  
- パートナーシップ創出に向けた交流の促進 -

#### 第4次「金沢市協働推進計画2026」

(仮称)  
令和8（2026）年度～令和12（2030）年度

#### 分野別計画

金沢市  
地域コミュニティ活性化推進計画  
(令和5（2023）年度～  
令和9（2027）年度)

#### 金沢市における市民参加及び協働の推進に関する条例

(平成17（2005）年3月制定)

金沢市における市民参加及び協働の推進に関する条例 (平成17（2005）年3月制定)	
金沢市における学生のまちの推進に関する条例 (平成22（2010）年3月制定)	金沢市における地域コミュニティの活性化の推進に関する条例 (平成29（2017）年3月制定)
金沢市市民活動サポートセンター条例 (平成30（2018）年9月制定)	

# 金沢市協働推進計画2026（仮称）骨子案

## 2. 協働のまちづくりの現状

### （1）社会情勢の変化

#### 人口減少、超高齢化に伴う地域課題の増大

推計では、5年後の2030年までに、金沢市の65-74歳人口は、約5万人となり、現在と変わらず低い水準であることに加え、75歳以上人口が約4千人増加すると見込まれる  
担い手不足に加え、地域課題の多様化・複雑化の進行が懸念される

#### 社会貢献意識の変化と持続可能な地域参加

社会や地域に貢献したい人の割合は増加傾向にあるが、個人志向の意見の割合も依然として多い  
地域の力が落ち込む中、持続可能な形で運営していけるような仕組みの構築が必要

#### デジタル化の進展

コロナ禍の中、社会全体で急速なデジタル化が進み、地域活動などでも取り入れられ、活動の効率化や情報共有が容易になった一方、ICTの利活用の推進や、デジタル化に慣れない人々に対する仕組みの整備が必要

#### 近年激甚化・頻発化する自然災害

地震や豪雨等、災害による被害が近年頻発しており、地域団体やボランティアによる対応・支援の重要性が表面化するとともに、平時からの関係づくりの重要性の再認識をもってもらうことが必要

### （2）協働に関する調査結果からみる現状と課題

協働推進計画2026（仮称）の策定に向け、本市における協働への意識等について現状を把握するため、アンケート等を実施

#### 協働に関する市民活動団体※1 アンケート調査

期間：R6.12.17～R7.1.17

会員の固定化、活動資金の確保が主な課題。財政支援だけでなく、行政からの情報発信や交流の創出の場の提供等を求める声も多い  
協働の相手先として、前回調査時と比べて町会その他の地域団体等を希望する傾向がある

#### 協働に関する学生団体 アンケート調査

期間：R7.8.14～R7.8.29

団体の認知度不足・イベント周知や活動資金不足が主な課題  
これに対し、各学生団体活動に関する情報発信や交流の場の創出を求める声が多い  
活動の企画は、団体外からのテーマに沿うより、自主的に発案して実施していることが大半

#### 市民活動団体交流会での意見交換

実施日：R7.7.5

地域課題解決マッチングボックス『マッチ箱』※2での意見収集 実施日：R7.9.11～R7.9.25

まちづくり活動を推進するためには、人との繋がりや信頼関係が不可欠であり、仕組みの構築を検討すべき（対面式・デジタル上問わす）  
活動の「見える化」を行うことで、参加者や外部の人々に情報共有ができ、新たな連携や協働が期待できる

#### 市民の地域活動・市民活動に関する市民意識調査

期間：R7.7.8～R7.8.20

近所づきあいはもっとあったほうが良いという意識がある  
地域活動、市民活動について、いずれも参加傾向は低い、「参加してみたい」という層も相対的には少数だが存在  
コロナ禍を経て、一定数活動が整理されたという意識や、オンライン化が進んだという視点

※1 市民活動団体：ボランティア活動その他の公益的な活動を行うことを目的として市民が組織する団体

※2 地域課題解決マッチングボックス『マッチ箱』：地域課題について、課題投稿、解決提案、解決に向けた協働を行うディスカッションをするための地域課題解決プラットフォーム（インターネットサービス）

### （3）現計画の主な取組

**基本方針1** 多様なつながりを生み出そう  
-課題共有に向けた発信・対話の強化-

○ コーディネーター等対話の場を支援する担い手育成 ○ 多様な媒体・手法による情報提供 等

**基本方針2** つながった仲間と動き出そう  
-担い手への支援体制の強化-

○ 市民活動サポートセンターによる研修・講座の実施 ○ 学生の地域活動・市民活動への参加促進 等

**基本方針3** つながりをお束ねして大きな力にしよう  
-パートナーシップ創出に向けた交流の促進-

○ 協働のまちづくりチャレンジ事業の拡充 ○ 交流の場創出事業の充実 等

▶ 市民活動サポートセンター事業の充実、多様な主体が参加しやすい仕組みの整備、交流や対話の場の創出など、パートナーシップによるまちづくりを推進

# 金沢市協働推進計画2026（仮称）骨子案

## 3. 計画の目指す姿と基本方針

### （1）計画の目指す姿

このまちが活力に満ちた「まち、であり続けるためには、多様な主体からまちづくりの担い手が生まれ、その活動が内外に共有されることで相互につながり、協働の取組が持続可能な地域社会への活力になっていくことが大切

#### 現状における主な課題

- ・ 担い手の発掘・支援と組織全体の能力向上
- ・ 多様な主体間同士の交流・連携・つながりの強化
- ・ 市内の活動や地域課題の「見える化」・共有
- ・ 様々な活動・取組へのデジタル化に伴う支援

▶ 上記の不足

協働を推進し、課題を解決するための計画

#### 金沢市協働推進計画2026(仮称)

ニーズや課題、活動内容が共有され、市民全体が市内や地域コミュニティのつながりの中で、まちづくりに参加している状態を目指す

#### 計画の目指す姿

#### みんなの活躍がにつながる協働のまちづくり

多様な市民が情報に触れ、自ら行動に移して活動に参加し、またその活動が発信されつながっていくことで、地域社会が活性化し、金沢らしい個性にあふれた誇りあるまちを共に創り出している

### （2）基本方針

#### 基本方針 1

#### 施策の方向性

#### 市民が活躍する、多様な担い手支援

まちづくりに取り組む多様な人や組織を支援するため、人材の掘り起こしや、現在活動している人や組織への中間支援を充実させることで、地域や市内の課題解決のため、初期支援から中間支援まで、多様な担い手支援を進める

- 1 幅広い世代の可能性ある担い手の発掘・育成
- 2 担い手の組織基盤強化への支援

#### 基本方針 2

#### 施策の方向性

#### 多様な主体の活動をつなげる施策の推進

地域に根差した地域団体と、多様な人や組織との連携・相互理解を深めるため、地域と多様な担い手がつながる活動を創出・支援する施策を進める

- 1 地域と多様な主体とのつながり創出
- 2 多様な担い手が連携した活動への支援
- 3 地域課題を提案しやすい場の提供

#### 基本方針 3

#### 施策の方向性

#### 相互作用を生み出す情報収集・共有の強化

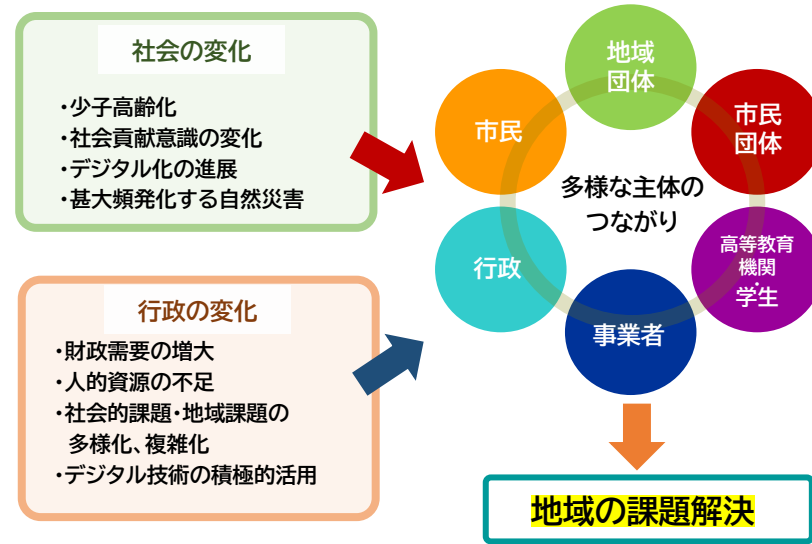
市政情報や、まちづくりに取り組む多様な人の経験・情報を収集し共有するとともに、自らの活動・組織のための学びの場を提供することで、市民の地域活動や市民活動の経験等が、互いに生かせる仕組みづくりを進める

- 1 市民参加、協働に関する情報発信
- 2 市民の活動事例の収集と発信
- 3 まちづくり活動や課題解決を学ぶ機会の充実

### 参考説明

#### 協働とは

様々な組織や団体が、共通の目的を達成するために、対等の立場でお互いの特性を生かし、協力しあうことをいいます。例えば、地域課題の解決のため、市民が行政に「実行力やアイデア」を提供し、また行政は市民に「情報や資金や場」を提供するなど、お互いが対等な立場で補完・協力しあう「協働によるまちづくり」がすすめられています。



# 金沢市協働推進計画2026（仮称）骨子案

## 4. 施策の体系

